



蜘蛛の糸
クモのいと

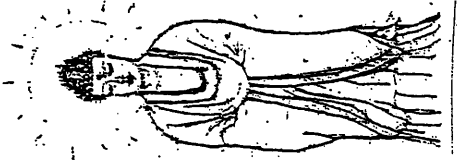
挿し絵
原書
作
き
換
え

芥川龍之介
宮崎あき
虹
子
たけ

この日本語版グレイデイド・リーダーは JGR
プロジェクトグループが開発した試作品です。
販売を目的としたものではありません。

© 2003 by JGR プロジェクトグループ

お釈迦さま



カンダタ



モ



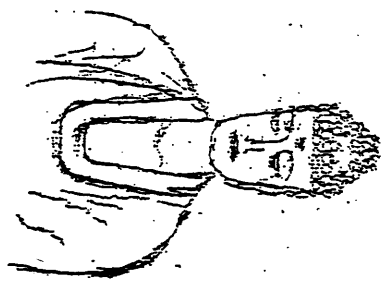
糸

極楽

地獄

きれいで楽しいところ

悪いことをした人がいるところ



そして、お釈迦さまは歩いて行きました。

(1)

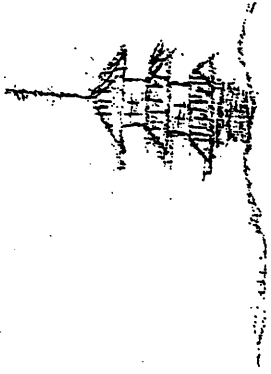
人はみんな、死にます。死んだら、どこへ行く
でしようか。

極楽へ行く人もあります。行くことができますな
い人もあります。どんな人が極楽へ行くこと
ができるでしようか。いいことをした人でし
ようか。悪いことをした人でしようか。

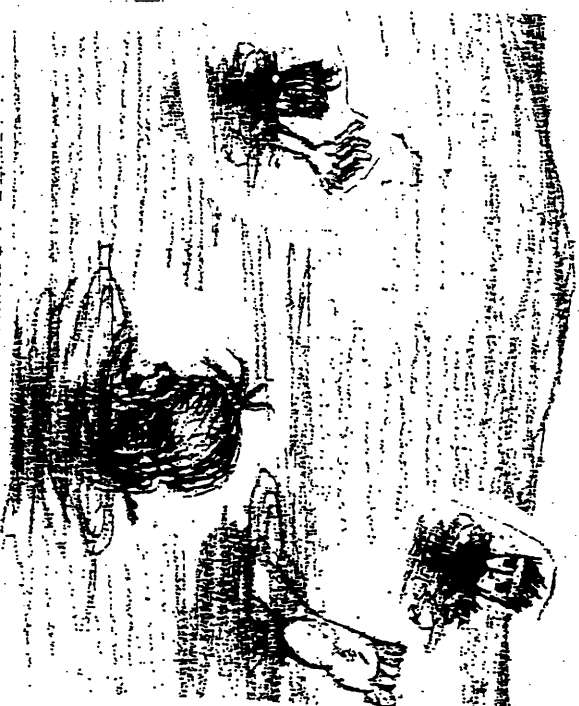
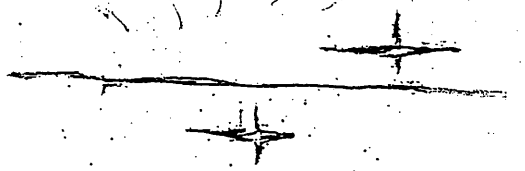
極楽は、きれいで楽しいところです。極楽に
は、花がたくさんあります。いろいろな色の花
があります。赤い花もあります。白い花もあ
ります。花はみんな、とてもきれいです。



花はとてもきれいです。
 極くには、赤や白の花がたくさんあります。
 明るくて気持ちいい春の朝です。



冷たくて赤い血の池の上に、極楽のきれいなクモの糸が一本見えます。——本のクモの糸はとてもきれいです。



(2)

ここは極楽です。極楽には池があります。きれいな池です。池の中に花があります。たくさんあります。赤や白のきれいな花です。

春の朝です。明るくて、気持ちいい朝です。男の人が極楽の池の近くを歩いていました。この男の人はお釈迦さんです。お釈迦さんは池の近くの花を見ました。そして、「きれいな花だ。」と小さい声で言いました。つぎに、池の中の花を見ました。そして、「これも、きれ

いだーと言いました。池には水がたくさんあります。きれいな水です。水の上にいろいろな色の花があります。赤い花もあります。白い花もあります。水の上の花と花の間から、池の下が見えました。池のずっと下は、地獄です。お釈迦さまは池のずっと下を見ました。地獄を見ました。地獄にたくさんの人がいました。たくさんの人の中に、男の人がいました。この男の人をお釈迦さまは知っていました。

4

(4)

お釈迦さまは、極楽の池の上からカンダタを見ました。

「あゝ、カンダタは血の池に落ちた。私はカンダタを地獄から出すことができなかった。カンダタは、自分ひとり、地獄から出たいと思った。『自分ひとり』が大切だった。だから、カンダタはまた、地獄に行った。．．．。」とお釈迦さまは小さい声で言いました。

く ない！ 赤い血の池へ行きたくない。地獄へ
帰りたくない！ 地獄は好きじゃない。極楽へ
行きたい。きれいな極楽へ行きたい！ 血の池
に落ちたくない。落ちたくない！

「こら！ 悪い泥棒たち！

このクモの糸は私のもの
だ。私の糸と

をつかんで

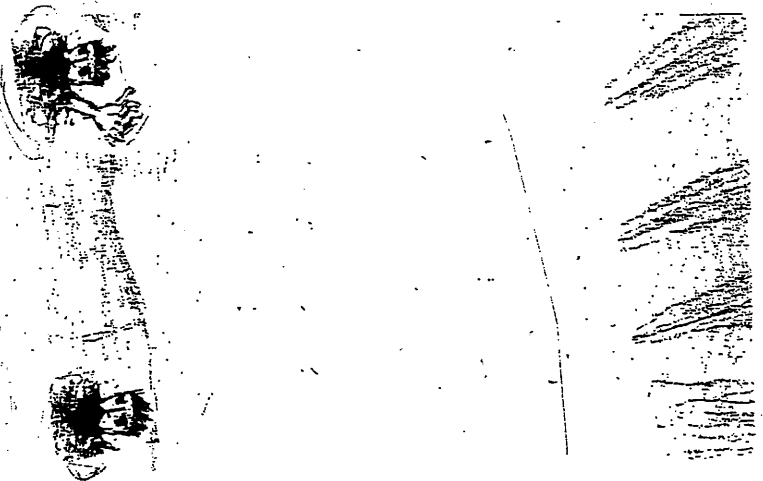
いけない。上へ来ては

いけない！」とカシダタは

大きな声で言いました。

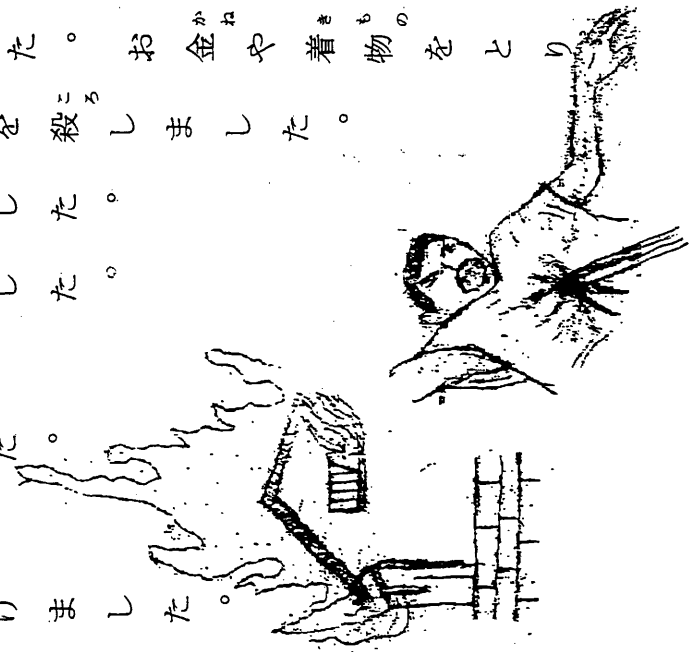


「あ、あの男の名前は、えくと、忘れた。あ、
ちよつと待って。そうだ！ 『カシダタ』だ。」

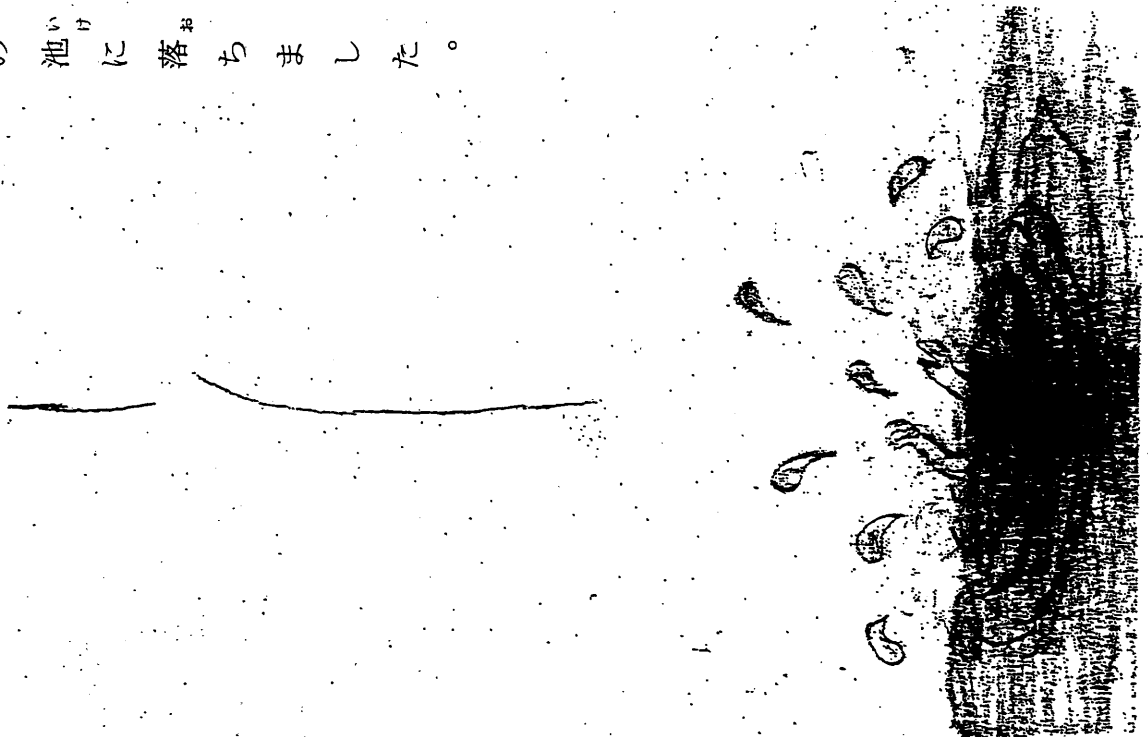


このカシダタは大泥棒でした。大泥棒は、悪い
い、悪い泥棒です。泥棒は、他の人のものを
とります。他の人のお金や着物をとります。

カンダタは^{おおどろぼう}大泥棒でしたから、他の人のものをたくさんとりました。お金^{かね}や着物^{もの}をとりました。カンダタは人を殺^{ころ}しました。たくさんの人^{ひと}を殺^{ころ}しました。たくさんの人^{ひと}が死^しにしました。カンダタは人を殺^{ころ}して、お金^{かね}や着物^{もの}をとりました。家^{いえ}に火^ひをつけました。たくさんの人^{ひと}の家^{いえ}に火^ひをつけました。家^{いえ}の人^{ひと}が驚^{おどろ}いて家^{いえ}から出^でました。そのとき、家^{いえ}に入^{はい}って、家^{いえ}の中^{なか}のお金^{かね}をと



そのときです。きれいなクモの糸^{いと}がカンダタの手^ての上^{うへ}でプツンと切^きれました。カンダタは、「あつ」と言^いって、冷^めたくて赤^{あか}い血^ちの池^{いけ}に落^おちました。



ずつと下ですから、もう見えません。
 「二つの手できれいなクモの糸をつかんで上へ
 へ行ったら、地獄から出ることができ。ウ
 ハハハ。」とカンダタは大きい声で笑いまし
 た。



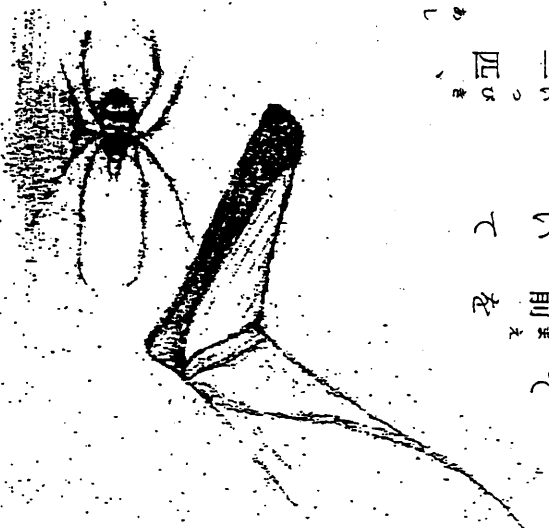
ました。

カンダタはいろいろな悪いことをたくさんし
 ました。でも、いいこともしました。ひとつ、
 しました。

カンダタが道を歩いて
 いたとき、カンダタの前を
 小さいクモが一匹、歩いて
 いました。

「あ、こんなところに一匹、
 クモがいる。」カンダタは足で

クモを殺したいと思いました。でも、そのと



き、——待^まって。この小^{ちい}さいクモは生^いきてい
る——と思^{おも}いました。
——私^{わたし}と同^{おな}じだ。私^{わたし}も生^いきている。このクモ
も生^いきている。私^{わたし}もクモも死^しんでいない、生^いき
ている。クモは生^いきているから、クモを簡^{かん}単^{たん}に
殺^{ころ}してはいけない——と思^{おも}って、殺^{ころ}しませんでした。

8

お釈^{しゃ}迦^かさまは、地^じ獄^{ごく}のカンダタを見^みて、思^{おも}い
ました。

——カンダタは悪^{わる}いことをたくさんした。で

そうして、また下^{した}を見^みました。

「あつ。あれはなんだ！」カンダタはもつと大^{おお}
きい声^{こゑ}で言^いいました。

たくさんの人^{ひと}が、冷^めたくて赤^{あか}い血^ちの池^{いけ}からき

れいなクモの糸^{いと}をつかんで、上^{うへ}へ上^{うへ}へ来^くるの

です。カンダタはこれを見^みて驚^{おどろ}きました。

——これは、クモの糸^{いと}だ。クモの糸^{いと}は強^{つよ}くな

い。こんなにたくさんの人^{ひと}が糸^{いと}をつかんだら、

このきれいな糸^{いと}は切^きれる。切^きれる？

ああ、切^きれるかもしれない。切^きれたら、わた

しはまた、あの冷^めたい血^ちの池^{いけ}に行^いく？行^いきた

18

ー ああ、あのきれいな糸を二つの手でつか
 みたい。二つの手でつかんで、上へ行ったら、
 この血の池から出ることができる。地獄から
 出ることができる。そして、上へ行っ
 たら極楽まで行くことができるかもしれない。
 ー ーとカシダダは思いました。
 カシダダは、
 すぐいきい
 クモの糸を
 二つの手でつかみました。
 として、上へ上へ行きました。カシダダは

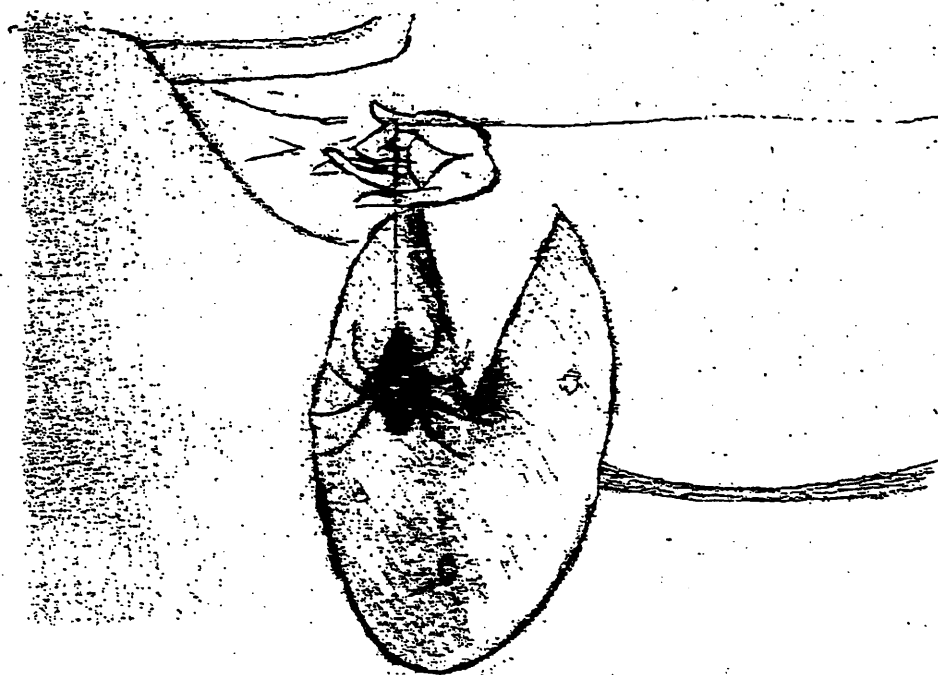


も、やさしい気持ちもあつた。クモを殺さな
 かつた。カシダダを地獄から出した。出す
 ことはできないだろうか？ー

お釈迦さまは近くを見ました。池の中にたく
 さん花があります。花の近くに葉があります。
 その葉の上にクモが一匹いました。クモは、葉
 の上で、糸を出していました。きれいな糸で
 す。

お釈迦さまは、そのきれいな糸を手にとりま
 した。そして、その糸を花と花の間から水の中
 に入れました。

糸は下へ、下へ行きました。ずっと下へ行きました。



大泥棒でしたから、こんなことはとても上手です。でも、地獄から極楽までは、とても遠いのです。

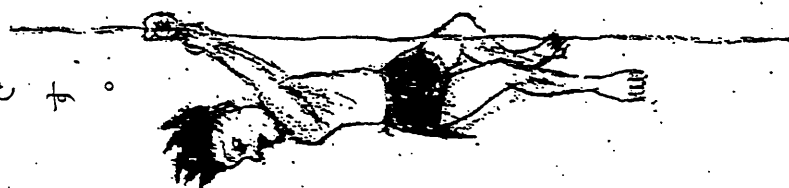
上へ行っても行っても、まだ上があります。

カンダタは疲れました。手が痛いのです。足も痛いのです。

——少し休みたい——、とカンダタは思いました。そして、休みました。休んで、下を見ま

した。冷たくて赤い血の池は下です。

ずっと下です。



の上を見ました。
 血の池のずっと上は極楽です。その時です。
 — あ、あれは何だ？ —
 カンダタは驚きました。ずっと上の遠い遠い
 極楽から、クモの糸がカンダタのところへ来、
 るのです。



(3)
 ここは、地獄です。地獄には、血の池があ
 ります。血の池は赤いです。たくさん
 泥棒が人を殺しました。いい人たちが
 殺した。いい人たちの体から、血がた
 くさん出ました。赤い血が出ました。血の池は
 血はこの人たちの血です。そして、血の池は
 とてもしたいです。冷たい血の池にたくさん
 の人がいます。悪いことをした人たちです。
 この人たちは、ときどき、冷たくて赤い血の

池^{いけ}から頭^{あたま}を出^だして、「ハアー．．．」と言^いいま
す。そして、また、冷^めたくて赤^{あか}い血^ちの池^{いけ}の中^{なか}に
入^{はい}ります。

この人^{ひと}たちの中^{なか}に、カンダタがいます。カ
ンダタは、冷^めたくて赤^{あか}い血^ちの池^{いけ}から頭^{あたま}を出^だし
ました。——あゝ、この冷^めたい池^{いけ}は好^すきじや
ない。この赤^{あか}い血^ちの池^{いけ}から出^でたい。わたしは悪^{わる}
いことをたくさんした。だから地^じ獄^{ごく}に來^きた。で
も、地^じ獄^{ごく}は好^すきじやない。この地^じ獄^{ごく}から出^でた
い。どうしたら、出^でることができらるだろうか？
——とカンダタは思^{おも}いました。そして、血^ちの池^{いけ}

クモの糸^{いと}です。きれいなクモの糸^{いと}です。

